

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：8/6～8/10

・8/6(月)

広島「原爆の日」、東京医科大学、セクハラ問題の町長などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題は見られませんでした。また、広島「原爆の日」の報道については検証者の所感を記しました。

・8/7(火)

東京医科大学、北朝鮮問題、トランプ大統領、野田大臣の情報漏えい、安田純平さんの妻会見、サマータイム、眞子さまと婚約内の小室さんがアメリカ留学へ出発などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題は見られませんでした。また、東京医科大学とトランプ大統領の報道については検証者の所感を記しました。

・8/8(水)

翁長前沖縄県知事死去、眞子様ご婚約に暗雲、「従軍慰安婦問題」討論会が中国政府の要望で中止などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、翁長前沖縄県知事死去の報道については放送法に抵触する恐れのある場面が見られました。

・8/9(木)

長崎原爆の日、翁長県知事死去、サマータイム導入の明と暗、高層ビル建設をめぐる三島市長が驚きの発言、石破氏が総裁選に立候補表明、神奈川小学生母親らがエアコン設置の署名を文科省に提出などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、翁長県知事死去についての報道では放送法に抵触する恐れのある場面が見られましたが、サマータイム導入の明と暗についての報道では放送法第四条の見地から高く評価できるものと見受けられました。また、翁長県知事死去についての報道では印象操作の疑いのある場面も見られました。

・8/10(金)

石破元幹事長総裁選出馬表明、翁長沖縄県知事逝去、玉木氏が代表選出馬表明、人事院が国家公務員の定年について意見書、日米新貿易協議などについて報じられました。放送法第四条の見地から検証を行いました所、特に問題は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年8月6日
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 ※星キャスター、皆川キャスターは広島県坂町から中継</p>		
<p>検証テーマ：広島「原爆の日」、東京医科大学、セクハラ問題の町長</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風13号関東を直撃か ・西日本豪雨から一ヶ月 ・広島「原爆の日」 ・神奈川県鎌倉市の海岸にシロナガスクジラ ・栃木県日光市で観光中のフランス人が行方不明に ・東京医科大学 ・セクハラ問題の町長 ・スポーツ報道 ・23Today <p>関東で台風接近中 西日本豪雨 都立高副校長がわいせつ行為 インドネシアでM6.9の地震 札幌市、タクシー内で暴れた乗客の男を逮捕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島「原爆の日」：結論→特に問題なし <p>今日は広島に原爆が投下されて73年ということで広島での祈りについて西日本豪雨災害で被災した広島県坂町小屋浦での祈りと、広島市での式典が取り上げられていた。</p> <p>坂町小屋浦での祈りについては、坂町小屋浦の慰霊碑の世話をしている西谷俊樹さんの「原爆と言うとどちらかと言うと広島市内とか、そこに焦点がそっちにあたっているんだけど、逃れてそれを救護、看護した人もね、周辺の郊外にはいたんですよ。一年に一回でも慰霊碑に来て、当時を思い出すというのは世代を超えて若い人も一緒にここできるといというのが私の願いですが。」というコメントが取り上げられていた。</p> <p>また、式典については以下に朱記したシーンがVTRで取り上げられていた。</p> <p>安倍総理「粘り強く双方の橋渡しに努め、国際社会の取組を手動していく決意です。」</p> <p>ナレ「安倍総理は挨拶の中で去年国連で採択された核兵器禁止条約に触れませんでした。」</p> <p>記者「核兵器禁止条約には日本は加わっていないという現状なんですけれども」</p> <p>川崎哲(ICAN国際運営委員)「今までの政府のやり方は核を持つ国の側の代弁者みたいになってしまっています。で、橋渡しというのであれば、この禁止条約の側の意義もきちんと認めた上で、じゃあ現実には何ができるかとい</p>		

うふうにそういう姿勢に転じてもらいたいです。」

また、坂町小屋浦の中継では以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

皆川玲奈「今日、こちらにお参りに来た方は原爆と豪雨災害でなくなった方のことを忘れずに生きていかなく手はいけないね、と話していましたね。」

星浩「原爆の記念式典にはですね、海外から NGO とか外交官がたくさん参加してたんですけども、今年はそのやはり核兵器禁止条約というのが最大の話題になってましてですね、日本が参加してないのはなんかもどかしいね、という反応を聞きましたよね。日本はよくアメリカの核の傘の下にいとされるんですけども、ま、核の傘の下にいてもですね中長期的な視点から核兵器廃絶という旗を振ることは十分可能なわけですし、やはり大事なのはそういう旗を振るといふ政治的な意志だと言うことをますます今日感じましたね。」

このトピックに当てられた時間は 302 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・東京医科大学：結論→特に問題なし

東京医科大学が入学試験で女子受験生の得点を一律に減点していた問題で、得点の捜査は文科省の接待汚職事件で在宅起訴された東京医大臼井正彦前理事長の指示で行われていたことが関係者への取材でわかったこと、得点操作については薄い前理事長と入試を担当する課長ら数人のみで共有されていて、最終的に可否を判断する入試委員のメンバーの殆どは知らされていなかったということが明らかになったと伝えられた。このトピックに当てられた時間は 33 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・セクハラ問題の町長：結論→特に問題なし

女性へのセクハラ問題で町政を停滞させた、などとして不信任決議が可決されていた群馬県みなかみ町の前田善成町長は失職か議会の解散化の判断を迫られていたが今日、議長に議会解散の通知書を提出し受理されましたこと、前田町長は解散の判断にセクハラ問題は関係ないとしていることが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 29 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・広島「原爆の日」

中継での星キャスター「日本はよくアメリカの核の傘の下にいとされるんですけども、ま、核の傘の下にいてもですね中長期的な視点から核兵器廃絶という旗を振ることは十分可能なわけですし、やはり大事なのはそういう旗を振るといふ政治的な意志だと言うことをますます今日感じましたね。」というコメントについて「核の傘の下にいても中長期的な視点から核兵器廃絶という旗を振る」というのは具体的にはどういったアクションを指すのかが全く伝わってこない非常に抽象的なものであった。核の傘の下に留まることと中長期的な視点から核廃絶の旗を振る、という 2 つの選択を両立することがどのようなメリットやデメリットが有るのか、あるいは両立させるためにはどういった困難があるのかなどを伝えずに、「原爆の日」につけ込んで特定の方向に煽るか

NEWS23 週刊報告 詳細版

のように「大事なのはそういう旗を振る政治的な意志」と言い放つのはいくらなんでも軽率で無責任な発言ではないだろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年8月7日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：東京医科大学、北朝鮮問題、トランプ大統領、野田大臣の情報漏えい 安田純平さんの妻会見、サマータイム、眞子さまと婚約内定の小室さんがアメリカ留学へ出発</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボクシング連盟、山根会長の黒い交際疑惑 ・東京医科大学 ・台風13号 ・北朝鮮と制裁の抜け穴 ・トランプ大統領の対イラン制裁再発動 ・情報漏えいで野田大臣が閣僚給与を全額返納 ・安田純平さんの妻会見 ・サマータイム ・スポーツ報道 ・23Today <p>ボクシング連盟 東京医科大学 妻の殺害、元銀行員の夫とその母親を再逮捕 眞子さまと婚約内定の小室さんがアメリカ留学へ出発 イタリアでタンクローリーが爆発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京医科大学：結論→特に問題なし <p>文部科学書の前局長に便宜を図ってもらう見返りに息子を不正に合格させたとして理事長と学長が在宅起訴された東京医科大学で汚職事件を発端に次々に浮上した不正入試の実態が明らかになったことが伝えられた。</p> <p>具体的には、調査報告によると主に得点操作が行われていたのは二次試験の小論文であり、まず100点満点で判定される受験生の得点に一律で係数0.8をかけた後に現役と二浪までの男子には20点を三浪の男子には10点を加点する一方で四浪以上の男子と女子受験生は加点されない仕組みであり、これがすべてコンピュータのプログラムにより自動的に出るようなシステムになっていたとのことが、調査委員会によって確認されたことが報じられた。</p> <p>また、去年と今年の一次試験では佐野被告の息子の他に18人に最大で49点を加点していたということや、こうした得点操作は少なくとも2006年から行われていて、大学の同窓生の指定の点数を水増しして合格させたケースもあったとのことが報じられたと共に、不正の動機について調査委員会の聞き取りに応じた鈴木被告の「子弟を受け入れることで大学に寄付金がもらえ、また個人的にも謝礼を受け取っていたことが動機となっていた。」</p>		

というコメントも取り上げられていた。

こうした事態に対して林文部科学大臣が今夜開いた会見での「入学者選抜が公正に行われているかどうか、全国の国公立大学の医学部医学科、これを対象にですね、緊急に調査を実施する。」とコメントも取り上げられていた。

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「不正入試の実態が次々と明らかになりますが、星さん、根が深いですね。」

星浩「そうですね、2つの意味で重大な問題が発覚したと思うんですね、一つはその公平であるべき入試ですね、女性差別というのが続いていたということですよ。もう一つはOBだとかそれから寄付金だとか、そういうものが入試に影響を与えていたって言うことですよ。これ入試の公平性っていうのをものすごく損ねたということですよ。」

駒田健吾「そうした不正が観光のようになっていたということも指摘されておりましたよね。」

星浩「そうですね、一つは学内のチェックは一体どうなっていたのかということでしょうね。もう一つは文科省、国の補助金がほしい23億円くらい出ているらしいんですけどもこのチェックもきいていなかったということですよ。これは本当に抜本的な出直しが必要になると思いますね。」

このトピックに当てられた時間は356秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・北朝鮮問題：結論→特に問題なし

JNNは国連安保理の北朝鮮生最委員会の専門家パネルのみ公開報告書入手し、北朝鮮が制裁の対象となっている機械類を輸出するなど21カ国の不正な取引を続け外貨を得ていることがわかったとのこと、先月31日に上海のおよそ400キロ沖合で北朝鮮船籍のタンカーと中国の国旗を掲げた戦績不明の船が横付けしているのを海上自衛隊の艦艇が発見したことおよびこれについて政府は不正な洋上取引である瀬取りの疑いが強いと見ておられることが報じられた。このトピックに当てられた時間は245秒で、放送法上の問題は見られなかった。

・トランプ大統領：結論→特に問題なし

オバマ政権時代に結ばれたイラン核合意を最悪の取引として批判してきたトランプ大統領が今年5月に核合意から一方的に離脱したことに伴い、イランに対して解除していた経済制裁の再開を命じたこと、今回の制裁ではアメリカ企業に依るイランの自動車産業との取引や鉄鋼やアルミニウムの輸出が禁じられていること、さらに11月にはイランの最大の外貨獲得手段である原油も制裁の対象となる予定であることが報じられた。

これに対してロウハニ大統領はトランプ政権が交渉のため首脳会談を行う用意があるとしていることについては制裁を撤廃してから対話を呼びかけるべきだ、と訴えたこと、アメリカの制裁はイランと取引をする日本など第三国の企業も対象となるが核合意の維持を主張するEUはEU加盟国の企業がアメリカの制裁に従うことを禁じるブロッキング規制の発動を発表していることも併せて報じられた。

また、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「アメリカによるイランへの経済制裁はイランだけではなく国際社会からも反発されています。」

星浩「そうですね、特にEUはね、この合意を相当苦勞してまとめた当事者ですからね、相当反発は強いんですね。日本はどうかと言うと日本はもともとイランとの独自のパイプを作ってきたので本来ならアメリカとは

別にイランとはつながっているということのアピールしたいんですけども、なにせ安倍総理はトランプ大統領と100%ともにあるというスタンスですから、どうも日本の企業もなかなか独自の動きをしにくいということで、日本はどうもEUとアメリカの中で板挟みという状況ですよ」

このトピックに当てられた時間は133秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・野田大臣と情報漏えい：結論→特に問題なし

野田総務大臣は自身が絡む情報公開請求の漏洩問題の責任を撮って大臣就任以降の閣僚給与の全額、およそ160万円を自主返納すると発表したこと、一方で金融庁は野田総務大臣側に情報を伝えることを承認した、当時の参事官など職員4人を処分下と発表したことが報じられた。また、金融庁の調査に対し、参事官らは報道機関からの開示請求だったため会見で質問があると思ひ、伝える必要があると考えたと説明しているということも併せて伝えられた。

加えて、野田聖子総務大臣の「情報公開法の所管大臣でありながらも法律の理解に不十分な点があったことで、行政に対する信頼を損ねるなど、ご迷惑をおかけしたと考えています。」というコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は47秒で、放送法第四条の観点からは問題は見られなかった。

・安田さんの妻会見：結論→特に問題なし

3年前にシリアに入国後、行方がわからなくなっているジャーナリストの安田純平さんの妻のMyさんが会見し、政府や関係者への感謝を伝えると共に安田さんの早期解放への協力を訴えたことが報じられるとともにMyさん（安田純平さんの妻）の「銃口を突きつけられている映像を見てしまって、なんとしてでも無事に帰ってきてほしい。」という会見でのコメントが取り上げられた。このトピックに当てられた時間は54秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・サマータイム：結論→特に問題なし

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの暑さ対策として安倍総理はサマータイムの導入が可能かどうか自党内で先行して検討するよう支持する考えを示したこと、一方でサマータイムの導入は国民生活に与える影響が大きいことや準備期間が二年しかないということから政府内でも慎重論が根強くあるということが伝えられた。このトピックに当てられた時間は26秒で放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・眞子さまと婚約内定の小室さんがアメリカ留学へ出発：結論→特に問題なし

秋篠宮家の長女眞子さまとの婚約が内定している小室圭さんが今夜成田空港から日本を出発したこと、小室さんはアメリカで弁護士の資格をとるためおよそ三年間ニューヨークにあるフォーダム大学のロースクールに留学するとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は20秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・東京医科大学

元々の発端は文科省の補助金行政を背景とした不正入学およびその斡旋であったところから、問題がずいぶん多方面に飛び火しているなという印象だ。もちろん、公正を装っておきながら得点操作を行っていたというのは許される問題ではないが、元々の文科省の問題についても東京医科大学の問題で有耶無耶にされるということはあるてはならないだろう。

星キャスターの「一つは学内のチェックは一体どうなっていたのかということでしょうね。もう一つは文科省、国の補助金がだいたい 23 億円くらい出ているらしいんですけどもこのチェックもきいていなかったということですよ。これは本当に抜本的な出直しが必要になると思いますね。」というコメントはもともと、国から補助金がでていながらチェックが効いていなかったというのは由々しき事態であり、補助金の割当先へのチェック体制を見直していくなり、チェック能力の不備を認め補助金行政を大幅に縮小するなり、抜本的な見直しが求められていると言えるだろう。

・トランプ大統領

雨宮キャスターの「アメリカによるイランへの経済制裁はイランだけではなく国際社会からも反発されています。」と星キャスターの「そうですね、特に EU はね、この合意を相当苦勞してまとめた当事者ですからね、相当反発は強いですね。日本はどうかと言うと日本はもともとイランとの独自のパイプを作ってきたので本来ならアメリカとは別にイランとはつながっているということのアピールしたいんですけども、なにせ安倍総理はトランプ大統領と 100%ともにあるというスタンスですから、どうも日本の企業もなかなか独自の動きをしにくいということで、日本はどうも EU とアメリカの中で板挟みという状況ですよ」というやり取りであるが、今回の報道でアメリカによるイランへの経済制裁に対して反発していたのはイランと EU であった。

イランは言うまでもなく当事者であるし、星キャスターの言うように EU も核合意を「相当苦勞してまとめた当事者」であり、そうした当事者が反発するのはもともとであるが、それを指して「国際社会からも反発」とあたかも非当事者からも反発があるかのように語るのは不適切であろう。

また、星キャスターの「日本はどうも EU とアメリカの中で板挟みという状況」というのも意味がよくわからなかった。星キャスターによると「日本はどうかと言うと日本はもともとイランとの独自のパイプを作ってきたので本来ならアメリカとは別にイランとはつながっているということのアピールしたい」けれど「安倍総理はトランプ大統領と 100%ともにあるというスタンス」で「日本の企業もなかなか独自の動きをしにくい」ということであるが、それがなぜ「日本はどうも EU とアメリカの中で板挟み」ということになるのだろうか。

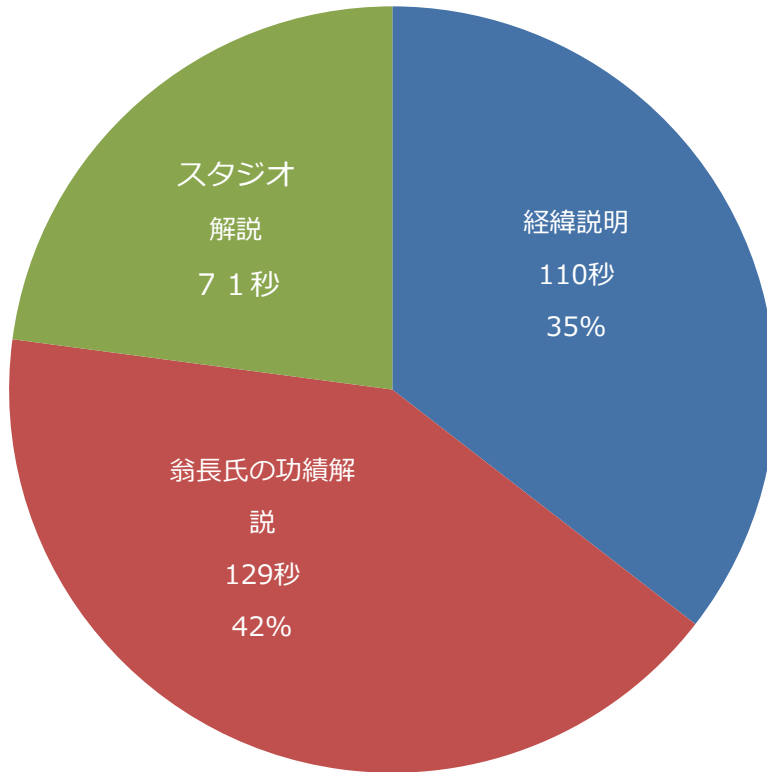
このコメントがわかりにくいのは「日本」が何を指しているのかが曖昧だからだろう。そもそも、「板挟み」とはジレンマと同様に対立する二つの間に立ってどちらに付くこともできず苦しむことを指すのであり、もしここでいう「日本」が「日本政府」を指するのであれば最初からトランプ大統領と 100%ともにあるのだから、EU とアメリカが対立した場合はアメリカ側に立つわけで板挟みのような状況にはならないだろう。

NEWS23 週刊報告 詳細版

「日本」という曖昧な主語の中に星キャスターが自らの願望を投影しているかのように感じられるコメントがあった。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送：2018年8月08日
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙 高橋尚子（元マラソンランナー）		
検証テーマ：翁長前沖縄県知事死去、眞子様ご婚約に暗雲、「従軍慰安婦問題」討論会が中国政府の要望で中止		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翁長前沖縄県知事死去 ・台風接近 ・ボクシング協会山根会長辞任 ・眞子様ご婚約に暗雲 ・津川雅彦さん死去 ・スポーツ報道 ・23Today <p>翁長全沖縄県知事死去 台風13号の接近 「従軍慰安婦問題」討論会が中国政府の要望で中止 インドネシアで地震 銀座・ソニービル跡地が公園に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翁長前沖縄県知事死去→結果：放送法第四条に違反。 <p>今回は翁長沖縄県知事の死去についての報道であった。翁長知事の主張や功績について報道され、今後の沖縄県知事選の論点や各政党の擁立者情報などが紹介されたのち、スタジオで解説が行われた。今トピックに当てられた報道時間は310秒で、経緯説明、翁長氏の功績解説、スタジオ解説に焦点が当てられた内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。</p>		



翁長氏の功績解説についての報道内容は以下の通り。

ナレーター「公約として掲げたのは基地建設反対でした。もともと自民党沖縄県連の幹事長まで務めた保守の政治家でしたが、基地建設反対を旗印に革新政党や財界との共闘を実現。保革共闘で選挙を戦う、いわゆるオール沖縄の象徴的存在となり、直後に行われた衆院選では沖縄の全選挙区で基地建設反対派が勝利するなど反対運動の原動力となりました。一方、辺野古移設を進める政府とは一貫して対立。」

翁長知事「県民に対して説明のない中で物事を進めようというのは、私からするとある意味で大変許せない状況だと思います。」

ナレーター「前知事が行った埋め立て承認を取り消すなど法廷闘争を繰り広げましたが、辺野古への移設工事は止まることはありませんでした。先月には基地建設を止める手段と言われる埋め立て承認の撤回を表明したばかりでした。」

翁長知事「あらゆる手法を駆使して辺野古に新基地を造らせないという公約の実現に向け、全力で取り組んでいく。」

ナレーター「翁長氏の死去を受け行われる知事選では引き続き基地問題が最大の争点になると見られます。基地

建設を進める自民党側は現宜野湾市長の佐喜眞淳氏の擁立を決めており、今後翁長氏の後継者選びが進められることとなります。」

スタジオ解説の内容は以下の通り。

ナレーター「公約として掲げたのは基地建設反対でした。もともと自民党沖縄県連の幹事長まで務めた保守の政治家でしたが、基地建設反対を旗印に革新政党や財界との共闘を実現。保革共闘で選挙を戦う、いわゆるオール沖縄の象徴的存在となり、直後に行われた衆院選では沖縄の全選挙区で基地建設反対派が勝利するなど反対運動の原動力となりました。一方、辺野古移設を進める政府とは一貫して対立。」

翁長知事「県民に対して説明のない中で物事を進めようというのは、私からするとある意味で大変許せない状況だと思います。」

ナレーター「前知事が行った埋め立て承認を取り消すなど法廷闘争を繰り返しましたが、辺野古への移設工事は止まることはありませんでした。先月には基地建設を止める手段と言われる埋め立て承認の撤回を表明したばかりでした。」

翁長知事「あらゆる手法を駆使して辺野古に新基地を造らせないという公約の実現に向け、全力で取り組んでいく。」

ナレーター「翁長氏の死去を受け行われる知事選では引き続き基地問題が最大の争点になると見られます。基地建設を進める自民党側は現宜野湾市長の佐喜眞淳氏の擁立を決めており、今後翁長氏の後継者選びが進められることとなります。」

翁長氏の功績解説についての内容では、訃報という報道の性質がある以上翁長氏が中心の内容となることは避けられないと思うが、政府との対立について翁長氏側にのみ立った報道であると判断される。政府側の主張は「辺野古基地建設を進める」と紹介されているが、その根拠などを合わせて報道されることが望ましい。これは放送法第四条第2項（政治的に公平であること）に違反していると考えられる。

・眞子様ご婚約に暗雲→結果：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は秋篠宮ご夫妻のご長女・眞子様と小室圭さんとのご結婚について、秋篠宮ご夫妻が「現状のままでは納采の儀を執り行えない」と発言されたことが伝えられた。今トピックの報道時間は77秒で、経緯説明が主な内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

・「従軍慰安婦問題」討論会が中国政府の要望で中止→結果：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は、中国の上海で行われる予定だった「従軍慰安婦問題」のフォーラムが中国外務省の要望で中止されたことが伝えられた。中国側は日中平和友好条約の40周年を迎える直前で、日本との関係に配慮したと伝えられた。今トピックの報道時間は24秒で、経緯説明が主な内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

検証者所感

特になし。

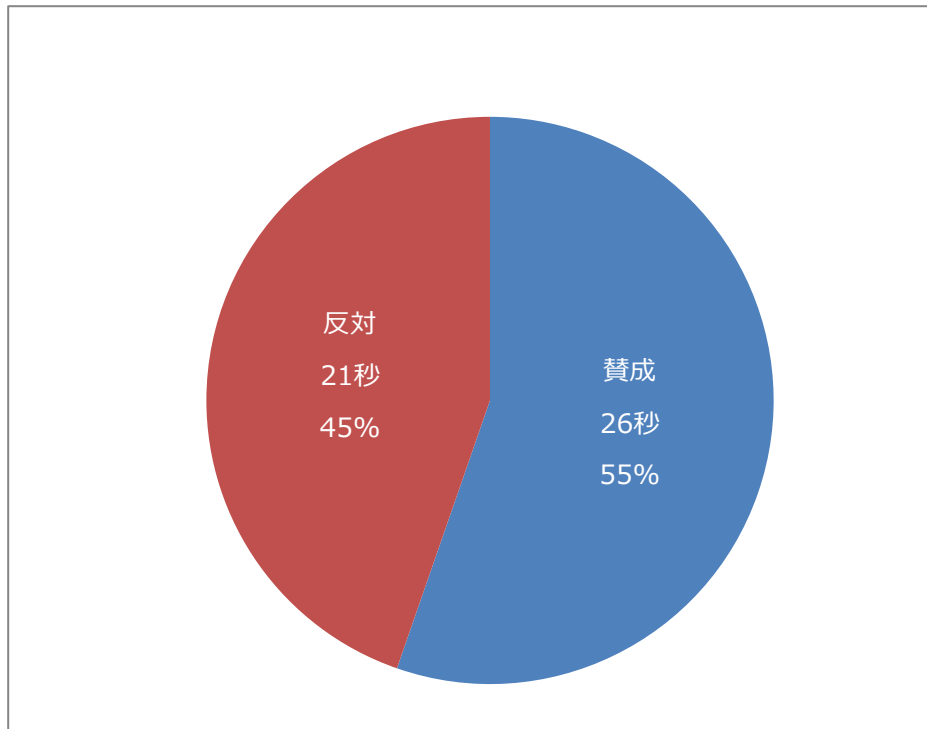
NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年8月9日
出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：長崎原爆の日、翁長県知事死去、サマータイム導入の明と暗、 高層ビル建設をめぐる三島市長が驚きの発言、石破氏が総裁選に立候補表明、 神奈川小学生母親らがエアコン設置の署名を文科省に提出</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日大チア部パワハラ問題 ・長崎原爆の日 ・翁長知事死去 ・サマータイム導入の明と暗 ・高層ビル建設をめぐる三島市長が驚きの発言 ・石破氏が総裁選に立候補表明 ・スポーツ動画 ・23Today <ul style="list-style-type: none"> 日大チア監督解任 長崎原爆の日 スズキ、マツダ、ヤマハ不適切検査相次ぐ 神奈川小学生母親らがエアコン設置の署名を文科省に提出 アメリカから乾燥大麻輸入 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎原爆の日→結論：放送法第四条の見地からは問題なし <p>73回目を迎えた長崎原爆の日。今年は国連の事務総長として初めて出席したグテーレス氏も出席し「長崎を核兵器による惨害で苦しんだ地球最後の場所にするよう決意しましょう。」とスピーチしていた。報道全体としては被爆者の高齢化が進み当時を知る語り部が減っていく中で戦争体験を語り継ぐ試みについて焦点が当てられた報道で特に賛否が分かれる点は見当たらなかった。このトピックスの報道時間は400秒であった。</p> ・翁長県知事死去→結論：放送法第四条第一項二号に抵触のおそれあり <p>政府による辺野古の基地建設に対して強く対立していた翁長雄志沖縄県知事がすい臓がんのため亡くなったことについての報道で、死を悼む人々の声や翁長県知事の辺野古基地反対への思いや軌跡が報じられていた。翁長氏の最後の会見も伝えられ「アジアの中の沖縄の役割。日本とアジアの架け橋。こういうところに沖縄のあるべき姿があるべきだって私たちの沖縄、何百年も苦勞してきたんだから今やっと沖縄金飛び立とうとしてるわけだから、また沖縄は振興策もらってね、基地を預かったらいいですよというものが、これから起こるようなら沖縄の政治家としては私はこれはとても容認できないと。」と述べていた。</p> 		

これを受けてコメンテーターの星浩氏は「翁長氏を知る人によりますと、会見の時点で余命はあまりないんじゃないかという覚悟をしていたらしくてですね、撤回の方針だけは自分で表明したいという覚悟を持っていたようです。まさにその命がけで基地問題に取り組んだと言えますね。」と述べていた。なお印象操作と思われる箇所が存在したため上記の結論とし具体的な内容に関しては下項目に記した。

・サマータイム導入の明と暗→結論：放送法第四条第一項四号の観点から高評価

東京五輪に向けて導入が検討されているサマータイムの導入についての報道で報道時間は 272 秒だった。導入について肯定的な意見を賛成、否定的な意見を反対として集計したところ賛否の時間配分比率は以下のようになった。



賛否の時間配分はほとんど均衡していた。報道内では実際にサマータイムを導入している鉄鋼関連商社の社員へのインタビューで「コミュニケーションが彼らの仕事に近い時間でできる。非常に楽になった。」「自転車で乗っていきまして、もう家帰ってからちょっと自転車でサイクリングと言うか時間に充てたりしています。」と肯定的な意見が出る一方で「営業の人はお客様の終業時間が 17 時とかそこに合わせないといけないと。」との声も報じられていた。また市民を対象にしたインタビューでは「涼しい時間 2 時間効率よく変えた方がいいのかなって思っているんで。」との賛成意見や「システムを変えるのが、すごい大変だと思うので、今の時間のシステムで競技時間だけを早めるとかそういう対応で十分じゃないかな。」との反対意見が聞かれた。

聞き取り対象の多角性や時間配分など放送法第四条第一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」を高い水準で満たしており高い評価を与えられる報道であったと結論する。

NEWS23 週刊報告 詳細版

- ・高層ビル建設をめぐり三島市長が驚きの発言→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

水の都として知られる三島市。その三島市で豊岡武士市長がすすめる高層ビル建設によって地下の水脈や湧き水に少なからず影響が出るとの懸念から渡辺豊博専務理事を中心とする市民団体が市長と対立。両者の面談中市長が席を離れると以下のようなやり取りに発展した。

豊岡市長：中止する考えはございません。もし中止させるんだったら私を殺してから行ってください。どうぞ。

渡辺氏：そんなこと言ってませんけど。

豊岡市長：はいどうぞ殺してください。はいどうぞ殺してください。

市民：これが市長かよ、三島の。恥ずかしいよ。

なお報道の多くは市長の行動について焦点が当てられており三島市の振興政策の是非については、ほとんど報じられなかったため賛否が分かれるような点は特に見当たらなかった。このトピックスは 145 秒であった。

- ・石破氏が総裁選に立候補表明→結論：放送法第四条の見地からは問題なし。

自民党の石破茂元防衛相が自民党の総裁選に立候補することを表明したことについての報道。対立安倍総理に対して劣勢であることや国会議員と同じ比率になった党員票についても触れられていた。なおこのトピックスは 72 秒報じられ特に問題点は見当たらなかった。

- ・神奈川小学生母親らがエアコン設置の署名を文科省に提出→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

神奈川県の子供たちが文科省に対してエアコンを設置するように求める 16000 人分の署名を提出したことについての報道。報道時間は 25 秒で問題点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックスの報道内容要旨

- ・翁長県知事死去→結論：印象操作の疑いあり

報道の後半部において『基地問題で政権と対立 翁長知事 伝わらなかった夢』とのテロップと共にコメンテーターの星浩氏が「VTR でも出ていましたけどもアジアと日本本土の架け橋になるんだというのが翁長さんの夢だったと思いますね。あの歴代の総理大臣を見てもですね、例えば橋本総理はその考え方違うけど当時の太田知事と本当にお酒を飲みながらね、本音を聞いていたんですね。残念なのはその安倍総理がその翁長さんと本当に腹を割ってね、じっくり話し合うっていう機会がなかったということなんですよ。ですからその翁長さんの夢もね、日本政府に伝わらなかったというのは非常に残念なことですよ。」とコメントしていた。安倍総理が翁長県知事の「夢」について把握していなかったかは不明確であり「伝わらなかった夢」という表現は一般の視聴者に安倍総理が翁長県知事の声を見捨てているかのような印象を与えるものであると考えられ、印象操作の疑いがあると結論する。

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2018年8月10日
<p>出演者： 星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙</p>		
<p>検証テーマ：石破元幹事長総裁選出馬表明、翁長沖縄県知事逝去、玉木氏が代表選出馬表明 人事院が国家公務員の定年について意見書、日米新貿易協議</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の防災ヘリが墜落 2名が死亡確認 ・明日からお盆休み 猛暑警戒 ゲリラ豪雨も“帰省ラッシュ” ・日航機墜落事故から 33年 遺族の思い ・石破元幹事長 自民党総裁選に名乗り ・菅官房長官 翁長知事の通夜に参列 ・日大田中理事長 監督職解任 ・フランス人女性行方不明 栃木・日光で大規模捜索 ・スポーツ報道 ・23Today 防災ヘリ墜落 お盆の帰省ラッシュ始まる 国民民主党代表選に玉木代表が立候補表明 人事院が国家公務員定年について意見書 日米新貿易協議 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石破元幹事長総裁選出馬表明：結論→特に問題なし 今回の報道は、石破茂元自民党幹事長が来月の自民党総裁選への立候補を表明したことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は135秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 ・翁長沖縄県知事逝去：結論→特に問題なし 今回の報道は、菅官房長官が先日急逝した翁長沖縄県知事の通夜に参列したことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は54秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 ・玉木氏が代表選出馬表明：結論→特に問題なし 今回の報道は、玉木雄一郎国民民主党代表が再選を目指して来月の国民民主党代表選への立候補を表明したことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は21秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 		

- ・ 人事院が国家公務員の定年について意見書：結論→特に問題なし

人事院が国会と内閣に対し国家公務員の定年を現在の 60 歳から段階的に 65 歳に引き上げる国家公務員法の改正を求める意見書を提出したこと、意見書では定年の引き上げを見据え 60 歳を超える職員の年間の給与を 60 歳前の 7 割程度に設定することなどを提言しているとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 26 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

- ・ 日米新貿易協議：結論→特に問題なし

「ワシントンで、日米の閣僚級が新たな貿易協議 FFR の初会合にのぞんだこと、アメリカ側は FTA 自由貿易協定を念頭に二国間交渉に改めて意欲を示したものの日本は TPP への復帰を促す従来の姿勢を堅持、懸念されているアメリカによる自動車関税の引き上げについては決定的な発言はなかった模様であること、協議は 10 日も続く予定であることが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 30 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感
特になし